

H30. 5. 8

道徳だより



家庭と学校
力を合わせて

「特別の教科」である「道徳」とは

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から新たに「特別の教科」として道徳教育の充実を図ります。答えが一つではない道徳的な課題に一人一人の児童が向き合い、考え、議論する道徳といわれています。また、教科書を用いるのは他の教科と同じですが、「特別の教科」では、学級担任が授業をし、評価は数値などではなく、記述式で行われます。評価は、他の児童との比較ではなく、個々の児童の様子を記述します。

今年度の本校の道徳重点目標は

今年度は、基本的な生活習慣や学習習慣を育成するために指導項目を以下の3つに絞って道徳授業時間や教育活動全体で重点的に指導しています。

○個性の伸長 ○友情・信頼 ○規律の尊重（約束事や決まりを守る）



個性の伸長とは？

個性の伸長とは・・自分のよさを生かし、さらにそれを伸ばし、自分らしさを発揮しながら調和の取れた自己形成をしていくこと。

つまり、自分の特徴をよい方向へと伸ばしていくと長所となり、苦手なこととして改善を図らなければ短所となることもあります。自分の長所は、自分ではわかりにくいところもありますが、周囲との関わりの中で気づくこともあります。友だちとの交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場（普段の授業・学校行事などを通して）の設定から長所を伸ばそうとする意欲を引き出したいと考えています。

友情・信頼とは？

子ども達にとって友達関係は重要な人間関係の一つであり、学校生活が充実するかどうか大きく関わってきます。低学年では、仲良く活動し、助け合うことの大切さに気づいて欲しいです。中学年では、気の合う仲間同士で群れる傾向が強くなり、トラブルが起きることも少なくないことから、互いによく理解し、信頼し、友達とのあり方を考えて欲しいです。高学年では、仲のよい友達とはより信頼関係を深めたり、逆に疎外感を感じたり、そのことで悩んだりすることも、生まれることもあります。このことから、協力して学びあう活動を通して、真の友情を育てると共に、互いの人格を尊重する人間関係を築いて欲しいです。

規則の尊重とは？

低学年から身近な約束や決まりを守ることで気持ちよく生活できることを知り、高学年になる頃には、権利や義務と言った観点から自他の行動について考えを深めたり尊重したりすることができる子ども達に成長して欲しいと考えています。